

PHP新書「地震予報」読者の皆様へ No.1778長期継続大型地震推定前兆 原稿校了後の前兆変化についての続報

続報 No.283

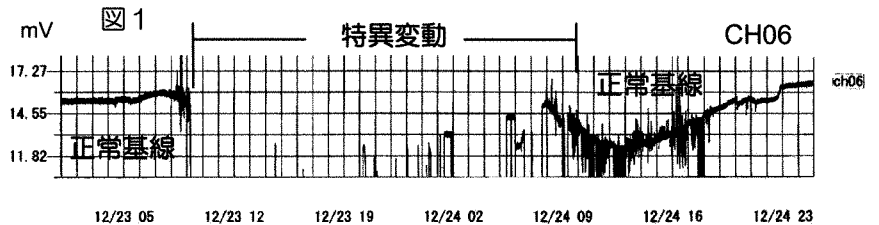
2019.12/25 (水曜) 17:00 発表

八ヶ岳南麓天文台 Yatsugatake South Base Observatory 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254

No.1778 12/23.9 CH06 直前特異認識観測 → 1月25日±3日 発生の可能性に修正

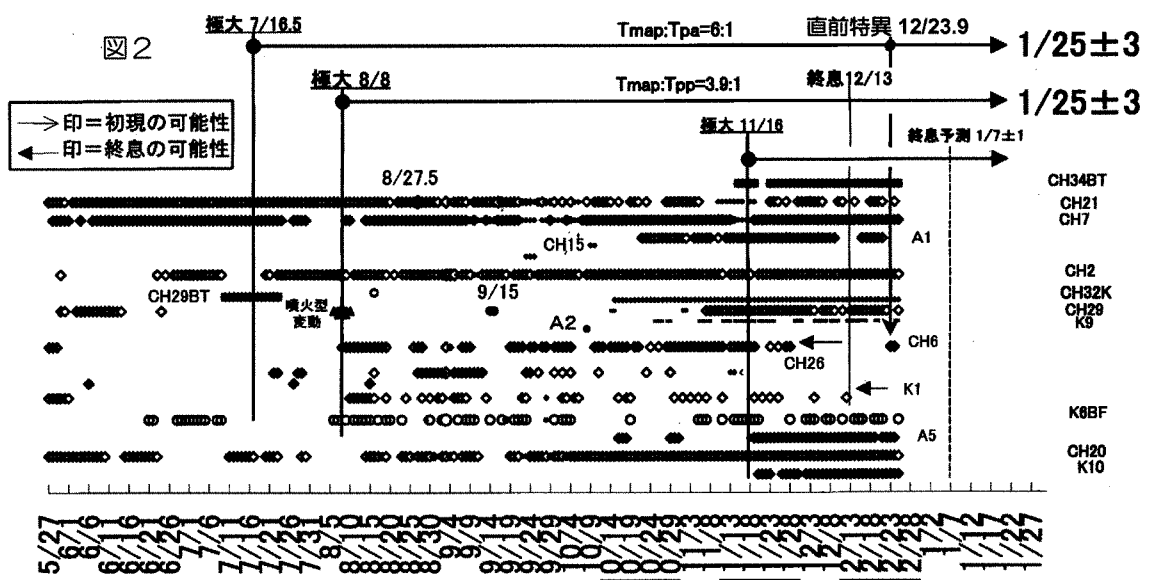
前続報では、最も早い場合の発生の可能性としては01月14日±3と報告しました。但し、12月30日±に前兆終息が確認できた場合に限ることも記しました。

No.1778関連認識の前兆変動は継続しており、数日以内に終息する可能性は少々考えにくい状態です。そんな中、静穏が続いていた八ヶ岳南麓天文台のCH06に12月23日～24日にかけて図1のとおり、短時間の特異変動が観測されました。CH06は11月28日まで特異変動が継続し11月29日に終息。その後は静穏基線が継続していました。約1ヶ月も静穏基線が続いていたので、12月23.9日を中心に出現した特異変動は直前特異の可能性が高いと思われます。



本日12月25日午後までの観測で、CH06は静穏基線が継続し、特異変動は約12時間程で終了した模様であることから、直前特異と認識されます。直前特異は、前兆変動が終息し、静穏期(Tpp)に入った後に特異変動を主として短時間、再出現する変動です。極大～発生=Tmap 直前特異～発生=Tpa としたとき、Tmap:Tpa=6:1の経験則があります。CH06の終息11月29日と直前特異の関係から

No.1778 Stage-25 後半 2019年5月末～12月



は08月07日以前に極大がないと調和しないこととなります。一番考えやすいのは、CH06が計算上の終息時期より数日早く終息した可能性です。このことから08月07日以前の極大07月16.5日に対する直前特異変動と認識して計算しますと、01月25日±発生の可能性となります。再調査で高知観測点のK1特異も糸状特異が12月13日に終息していることから、08月08日極大に対する前兆変動終息と認識されます。この関係も01月25日±発生と計算できます。従いまして、01月14日±発生の可能性を01月25日±発生の可能性と修正致します。これが正しい場合は11月16日極大に対する前兆変動終息が01月07日に観測されることとなります。これが確認できるか慎重に観測を続け続報します。また、本推定以外となる根拠変動が現われた場合も続報させていただきます。

前続報で記した08月06日～10日まで継続出現した浅間山又は草津白根山の噴火過去例と同形の火山噴火型前兆変動につきましては、前兆変動出現から噴火までは多いのは5日程度、最長例は草津白根山の34日で、数ヶ月経過後に噴火した観測過去例はないため不明です。火山近傍での大型地震を示しているだけの可能性も考えられます。

- ◆ 推定領域：図3の斜線域（複斜線域＝参考域）
- ◆ 推定規模：M7.8±0.5
- ◆ 推定時期：前兆終息後計算予定
但し最も早い場合の可能性 01月25日±3の可能性有
- ◇ 推定地震種：震源浅い陸域地殻・火山近傍
- ◇ 推定発生時刻：午前09時30分 ±1時間30分
または午後05時 ±3時間

